

遺された子どもを支えるために



身近な人を亡くす体験は、生きていればすべての人が遭遇する体験ではありますが、その後をどう生きるかということについてはマニュアルはありません。そのような体験に遭遇するのが子ども時代であった場合、さらにはそれが自死であった場合、どのようなことが起こり得るでしょうか。9月には自死や自殺の理解を広げ・深めることを通して、自死が引き起こす様々なことについて考えるシンポジウムを開催しました。今回のシンポジウムではその続編と位置付けて、身近な人を自死で亡くした子どもがどのようにそれを体験し、どのようにその後を生きることになるのか、そして我々には何ができるのか、皆さんと一緒に考えてみたいと思っています。

日時 2023年

2月5日 日

14:00~16:00

場所 Zoomによる

オンライン開催

参加方法

Googleフォームによる事前申込

1/30(月)まで

右記QRコードよりアクセスしてください



いのちのちに寄り添う

Part

2

シンポジスト

家族の自殺で遺された子どもが望む支援

—親・警察・葬儀社・学校をはじめとする地域の関係者に求められたこと—



大倉 高志氏 岡山県立大学 准教授 / 精神保健福祉士 / 社会福祉士

父親を自殺で亡くした遺族の一人として、同志社大学大学院社会学研究科で博士号を取得した遺族支援研究の12年間にわたる成果を著書「自殺で遺された家族が求める支援」としてまとめ、公刊した。自殺という亡くなり方を取り巻く社会的な偏見の真の解消と遺族支援施策の発展に向け取り組んでいる。

指定討論者

倉西 宏氏

京都文教大学臨床心理学部 准教授 / 京都文教大学グリーフケアポスCo*はこ代表、臨床心理士・公認心理師

学生時代から遺児支援活動に取り組み、遺児支援団体「あしなが育英会」で臨床心理士としても勤務する。グリーフケア活動とその理解のための研究を20年に渡り続け、現在は京都文教大学にグリーフケア活動の拠点を作り、2023年度には遺児へのグリーフケアプログラムを実施予定。

司会

濱野 清志氏

(一社)京都府臨床心理士会 会長 / 京都文教大学 教授

京都大学法学部および教育学部を卒業後、大学院で臨床心理学を学ぶ。1990年から九州大学助教授として学生相談に携わり、2002年から京都文教大学で臨床心理の後進の育成にあたる。「気」の研究によって京都大学博士(教育学)を取得。長年、心理臨床の実践とともに気功の実践と指導も行なっている。

「臨床心理士」を知っていますか？

悩みを抱え追い詰められた時、「死んでしまいたい」という想いは、誰にでも起こり得ます。

臨床心理士は、その気持ちにいち早く気づき、耳を傾け、

現実の「死」を避ける細心の注意を払っています。

また自死遺族となった方の苦しみに寄り添う、

大切な役割も担います。

一方で、「死の意味」は多様です。

生きること、心の成長と、深く関わっているのです。

私たち臨床心理士は、一人ひとりの「生・死」に、

真摯に向き合っています。



■ 臨床心理士とは

日本には様々な“カウンセラー”“相談員”がいます。そのうち「臨床心理士」とは、

- 臨床心理学に基づいた知識と技術で援助する、相談専門職です。
- 公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会の認定を受けた、有資格者です。（現在では、原則として、臨床心理士養成に關する指定大学院または専門職大学院を修了し、所定条件を充足したうえで、臨床心理士資格試験に合格した場合に認定資格が与えられます。）

■ (一社) 京都府臨床心理士会とは

- 京都府内に在住もしくは勤務する臨床心理士が所属する一般社団法人で、会員数は1,365名です（2022年11月現在）。
- 研修会を開催し、心理的支援の専門家としての専門性維持・向上に努めています。
- 行政機関などとも連携し、府民のこころの健康増進に取り組んでいます。

■ 臨床心理士の仕事

- 臨床心理士は、上図のように、社会の様々な場面で働いています。